

実績報告書

届出者	住所	東京都墨田区本所1-3-7	氏名	ライオン株式会社 代表取締役取締役社長 濱 逸夫
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主たる事業：洗剤、柔軟剤、歯磨、歯ブラシ、ハンドソープ、シャンプー、リンス、化粧品、薬品等の製造販売 大阪工場：洗剤（衣料用、台所用）、柔軟剤等の製造 大阪オフィス：「主たる事業」に記載した製品の販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27	年	4	月	1
			日～		
平成	30	年	3	月	31
(3年間)					

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	14,541 t-CO ₂	10,397 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	15,379 t-CO ₂	11,051 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3 %	4.2 %	22.8 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	4.1 %	22.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)
大阪工場では生産量を、大阪オフィスでは売上高をそれぞれ原単位の分母として設定し、それらの重み付け合算により求めた換算生産量を全体の原単位として設定しました。なお、換算生産量は3年間で約1.5%の増加を見込んでいましたが、第1年度は基準年に比べて12.5%減少し、第2年度は第1年度よりも5.8%増加しました。

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

衣料用洗剤市場における、粉末洗剤から液体洗剤へのシフトに伴い、当社でも粉末洗剤の生産量が減少し、原料となるアニオン界面活性剤の生産量も減少しつつあります。大阪工場では粉末洗剤の原料となるアニオン性界面活性剤を製造していましたが、生産効率を向上させるため、その製造拠点を千葉工場に集約し、大阪工場での生産設備が停止しました。そのため、①製造設備を稼働するための電力使用量、および②ボイラー燃料用のLNG使用量が大幅に減少しました。
以上、①、②により、計画期間2年目の原単位は、3年間の目標3%を大幅に上回る22.8%もの削減を達成いたしました。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・ 当社は、全社的な環境管理活動を推進するため、担当役員を委員長とする環境保全推進委員会を設置し（半期ごと開催）、温室効果ガス削減をはじめとして、水使用量管理・廃棄物管理・化学物質管理などの項目について、生産・事務営業・研究の部門毎に設定した目標および実施計画の進捗確認、および課題解決に向けた審議を行い、継続的改善を図っています。

・ 大阪工場は2001年に、他工場と一括でISO14001の認証を取得し、2016年にはISO14001の2015年版への移行を完了し、最新の環境マネジメントでの運用を継続しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 変電所の統合化	変電所を6ヶ所→4ヶ所へ統合化 (年間61.9t-CO2削減)	27 年度
		人工排熱				27 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) LED照明の採用	包装工場の蛍光灯をLED照明に更新 (蛍光灯 640ヶ、水銀灯 11ヶ) (年間47.8t-CO2削減)	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) インバーター化の採用	乾燥炉希釈ブロー(37KW)のインバーター化 (年間27.5t-CO2削減)	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1114) 蒸気・圧縮エアーの漏れ点検	蒸気圧縮エアーの漏れ点検と定期修理の推進	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (1126) 不要時の照明消灯、感知式照明の導入	昼休み時間帯の事務所内消灯、トイレ・倉庫の不使用时のこまめな消灯、ロッカーについては、センサーによる感知式照明を導入、温水便座の便座保温休止 (2019年8月)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (1126) 早時消灯、ノー残業週間の継続	ノー残業週間（毎月第2週）、早帰りデー（毎週水曜日）を設定、及び20時以降の残業自粛により在社時間短縮による早時消灯を実施。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (1218) 照明のLED化推進	LED照明については、H27年11月から3Fより順次、LED化を推進、5Fまでの工事を完了。(H29年8月にオフィス移転のためH28年まで)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (1127) デマンド監視制御盤活用	空調機の省エネ運転制御機能を搭載したデマンド監視制御盤の活用により、契約電力、使用電力量を削減。(H29年8月にオフィス移転のためH29年8月まで)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード (5111) 空調機制御運転	デマンド監視制御盤常時監視により、事務所内5台の空調機を制御運転し、都市ガスの削減を継続。(H29年8月にオフィス移転のためH29年8月まで)	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 純水装置の更新	エネルギー使用量を考慮し、純水装置を電気式から混床式に更新 (年間42.5t-CO2削減)	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) 冷凍機の更新	必要冷凍能力に合わせ、冷凍機を台数制御タイプに更新(年間7.0t-CO2削減)	27年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1218) 照明のLED化推進	厚生棟および包材倉庫の照明をLED化(13.1t-CO2削減)	28年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード(2112) 実績把握とフィードバック	定期的に実績把握するとともに、実使用者へのフィードバックにより削減意識の啓発を継続。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード(2121) 低燃費車への移行促進	リース契約更改時、コンパクトカー、ハイブリッドカー等、超・低排出ガス車への計画的な更新を推進。H27年度時点で76.2%導入済み、H28年度は82.2%の導入完了、H29年度は89%導入を目指す。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	大阪オフィス	コード(2123) エコドライブの取り組み	テレマティクスを活用し、アイドリング、急発進、急加速等のデータを管理者や本人にフィードバックし、注意喚起や改善意識の向上を図る等、エコドライブの啓発を推進。ドライブレコーダーも導入し、安全性向上にも努めている。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

<p>1 全社での省エネの取り組み 当社は、洗剤の製造工程の技術革新による乾燥設備のエネルギー負荷低減や、生産拠点の集約化などに取り組み、これまでに大幅なCO2排出量の削減を実現しています。 平成28年(2016年)には、関係会社を含めたライオングループ全体で、平成2年(1990年)に比べ、売上高原単位で43%のCO2排出量削減を達成しました。 今後更に、平成32年(2020年)には、同じく平成2年(1990年)比で、売上高原単位49%以上の削減を目標としています。</p>
<p>2 温室効果ガスの排出等の抑制に関する製品の開発 当社は、製品の内容物の原料を石油系から、大気中のCO2を増加させない(カーボンニュートラル)原料である植物系への切り替えを進めており、容器のコンパクト化にも取り組んでおります。 今後製品廃棄時に排出されるCO2を、平成32年(2020年)には平成2年(1990年)比で総量41%以上、売上高原単位53%以上削減することを目標としています。</p>
<p>3 「Fun to Share」活動の推進 当社は、環境活動を「Fun to Share」活動とし、省エネ、電気需要の平準化に資する措置を実施しています。5～9月をクールビズ期間、11～3月をウォームビズ期間とし、空調使用時の室内温度を夏季28℃、冬季20℃に設定して、服装を気温に適応させること等がその事例です。</p>

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区京橋1丁目1番1号	氏名	ラサ工業株式会社 取締役社長 庄司 宇秀
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ラサ工業(株)は、化成品部門・電子材料部門・機械部門で事業を展開。化成品部門では、様々な産業で使用される基礎化学品から最先端分野に対応する高純度薬品まで幅広い製品の生産、販売を行っている。最先端分野であるエレクトロニクス関係もてがけ、各種高純度リン酸塩や高機能塩化鉄の製造。また、エッチング後の使用済みの塩化鉄を回収しクリーニングした後返却するというリサイクルを考慮した環境問題に対しても積極的に取り組んでいる。大阪府内には化成品部門として大阪工場と大阪営業所がある。また、機械部門として大阪営業所がある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27	年	4	月	1
			日	~	平成
			30	年	3
			月	31	日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	7,725 t-CO ₂	7,781 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,312 t-CO ₂	8,332 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3.6 %	-3.2 %	-4.3 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-2.9 %	-3.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>第2年度(平成28年度)は、-4.3%の削減率となりました。温室効果ガスの排出量が増加した原因としては、熱効率の悪い製品の製造が増加したためです。今年度は、コンプレッサーの更新を行い、機器の省エネ化を行う予定です。今後も継続して削減できるよう対策の計画に従い温室効果ガスの低減に努めていきます。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

大阪工場は、ISO14001を認証・取得(審査登録)し、温暖化対策に取り組むために環境マネジメントシステムのプログラムに取り込み、温暖化対策の抑制体制の推進組織として、各部門の環境管理事務局員が各部門での省エネルギー活動を推進しCO2削減を図っています。また、工場長を責任者とする環境管理委員会で、対策の決定、進捗状況の確認、現状改善等を決定します。本体制は、定期的に開催することで、継続・維持されます。その他営業所に関しても空調管理等の節電に取り組んでいきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1218) 照明設備の導入	大阪工場内投光器のLED化。300Wフレクターランプ→33WLEDランプ 300Wバラストレス水銀ランプ→33WLEDランプ(年間23t-CO2削減)	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1122) 空気調和設備の運転改善	原料凍結防止のための夜間エアコン稼働を停止する。平成27年度に運用を開始し、平成28年度以降も継続運用中。(年間20t-CO2削減)	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				27年度
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1218) 照明設備の導入	工場内水銀灯のLED化。(年間削減量は導入数による。)	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) 高効率モーターへの変更	モーターのトップランナー化によるプレミアム効率への変更。平成28年度以降も継続。(年間削減量は導入数による。)(平成27年度1.3t-CO2削減)	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1123) 蒸気ドレンの回収	蒸気ドレン回収の導入を検討をする。	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
6	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1125) インバーターの導入	ファン、ポンプ、ブロワーのインバータ化。(年間削減量は導入数による。)	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
7	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(5112) 照明の間引き	事務所内の照明の間引きの徹底や可能な範囲で窓際の照明の消灯を徹底を、平成28年度以降も継続運用中。	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
8	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1113) 空調適正温度管理	冷暖房の温度設定を決定し、運用管理しており、平成28年度以降も継続運用中。	27年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				29年度
9	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1113) 空気供給元の変更	計装空気を使用しているところをコンプレッサーから空気を供給するように変更する。(年間5t-CO2削減)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				28年度
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1125) 熱損失防止	ボイラーにカバーラップを取り付けることにより、放熱ロスを低減させる。(年間8t-CO2削減)	28年度
	レ	人工排熱				～
	レ	平準化				28年度

11	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) コンプレッサー更新	コンプレッサーの更新による機器の省エネ化。 (年間35.4kL/年削減)	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1113) 電気炉の稼働回数の減少	電気炉を使用する製品の仕込み量を変更し、稼働回数を減少させることにより省エネ化を図る。 (年間26.2kL/年削減)	29年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3)その他の抑制対策
